

初期成長に優れるスギエリートツリーを活用した下刈作業省力モデル

林業研究センター

植栽初期の成長が早いスギ“エリートツリー”の大苗を皆伐跡地に植栽し、従来型植林と比較できるモデル林を造成、下刈り回数低減による低コスト再造林を実証しています。

【研究内容】

どうしたら再造林コストの1/3を占める下刈りを減らせるのか

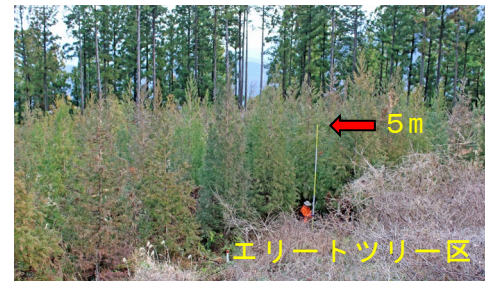
◎皆伐跡地に苗高約100cmのスギ大苗と苗高約30cmのスギコンテナ苗を植栽し、毎年樹高を測定しました。
大苗区（E：エリートツリー、C：愛媛育種混合）では、第2成長期の夏に1度、コンテナ苗区では毎年下刈りを行いました。



植栽前



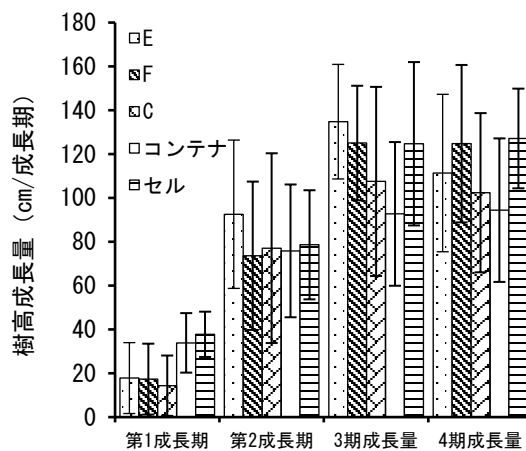
植栽直後



第5成長期経過後



コンテナ苗区（毎年下刈）
2020年1月（植栽5年目）の林況



樹高成長量



エリートツリー区（下刈省略）
2020年1月（植栽5年目）の林況

樹高は、第2成長期以降にエリートツリー区が有意に高くなりました。第2成長期末時点で平均213cm、第3成長期末時点では平均350cmと、3年で下刈りが不要な大きさととなり、下刈りは1度で済みました。なお、第4成長期末時点では平均553cmとなりました。

【今後の展望】

今後、エリートツリー種苗の流通が進むと思われますが、エリートツリーの特性を十分引き出させるためには、園外花粉の低減を図る必要があります。